

## 株式会社アド・シーズ

---

### 「感性」と「理論」の融合で拓く印刷の未来——

#### 独自の「2.5次元印刷」技術を武器に、組織変革と市場開拓に挑む。

---

株式会社アド・シーズは、1996年10月に創業し、まもなく30周年を迎える製版・印刷会社です。創業以来、同社はデザイナーやクリエイターが求める繊細な色の再現やデータ作成、色調調整といった「製版」の工程にこだわりを持ち、職人的な技術で印刷業界を支えてきました。近年、同社の最大の特徴となっているのが、2017年から2018年頃より本格的に取り組んでいる「2.5次元印刷」技術です。これはインクの積層によって印刷物に独特の凹凸や厚みを持たせる技術であり、何層にも及ぶインクの盛り上げ技術は、単なる印刷を超えてアート作品のような表現を可能にしており、視覚的な美しさだけでなく、指先で質感を感じ取ることができる新しい印刷体験を提供するものです。現在では同社の技術力とオリジナリティを象徴する中心的な事業へと進化しています。

独自の発想と印刷技術で業界に新しい価値観を提供する同社が、本事業をどのように活用したのか、取締役 プリンティングディレクター 中山 健太 様にお話を伺いました。

企業名：機株式会社アド・シーズ

所在地：東京都中央区湊 1-12-11

代表者：朝野 俊一

企業HP：<https://ad-seeds.co.jp/>



2.5次元作品 -富嶽三十六景- 神奈川冲浪裏  
上：白色再現 下：四色再現

#### Q. どのようなきっかけで本事業に参加しましたか。

本事業に参加した背景には、印刷業界を取り巻く劇的な環境変化と、次世代への円滑な事業承継という大きな課題がありました。

長年、代表を中心に培ってきた技術と経験は当社の強みである一方、経営判断や営業手法の多くが個人の経験に依存するスタイルとなっており、組織としての体系化が急務となっていました。また、新規事業および既存事業の今後の方向性を明確にする目的もありました。「2.5次元印刷」という独自技術をいかにして市場に広め、事業として確立させていくべきかを模索していた時期に、本事業の存在を知りました。

外部の専門家であるアドバイザーの視点を取り入れることで、自社の殻を破り、持続可能な経営体制へと変革することを決意しました。



2.5次元作品 -富嶽三十六景- 山下白雨  
上：白色再現 下：四色再現

#### Q. 貴社の取り組みに対してどのような支援がありましたか。

アドバイザーの伴走支援を受けながら、主に「顧客分析」と「経営計画の策定」、そして「営業ツールの刷新」という三つの柱で取り組みを進めました。まず着手したのは、これまでの営業活動と実績を細分化するための顧客分析です。過去の案件データから、営業実績を数値化し、客観的な視点で顧客層を分類しました。

次に、中長期的な「事業計画書」の策定に取り組みました。単なる目標数値の羅列ではなく、自社の強みである2.5次元印刷をどのターゲットに、どのような価値として提供していくのかという戦略を言語化し、5年後、10年後のありたい姿を明確に描き出しました。

さらに、営業現場での「伝え方」を改善するため、サンプルを兼ねた2.5次元印刷を施した名刺や営業ツールの開発にも注力しました。単に技術を説明するのではなく、見て触れることで驚きを与えるサンプルを戦略的に使い分ける手法を導入しました。

#### Q. 本事業に参加して得た成果はありますか。

本事業への参加を通じて得られた最大の成果は、社内のコミュニケーションが改善され、組織としての「共通言語」ができたことです。作成した事業計画書を経営層で共有し、これまで感覚的であった経営方針を改めて言語化し一致させることができたため、更に強い信頼関係と安心感を生む結果となりました。

また、営業面においても、「顧客の見える化」が功を奏し、提案内容も2.5次元印刷を組み合わせた複数の選択肢を提示するようになり「提案型営業」への転換が進みました。その結果、アドバイザーからの紹介も含め、イベント会社や美術館、スマートフォン周辺機器メーカーなど、これまでのデザイナー中心の顧客層とは異なる新たな市場からの引き合いが確実に増加しています。

加えて、本事業のスクールでは、グループワークを通じて、様々な職種の方の考え方やビジネスの捉え方に触れることができ、企業としても個人としても貴重な学びの時間になりました。

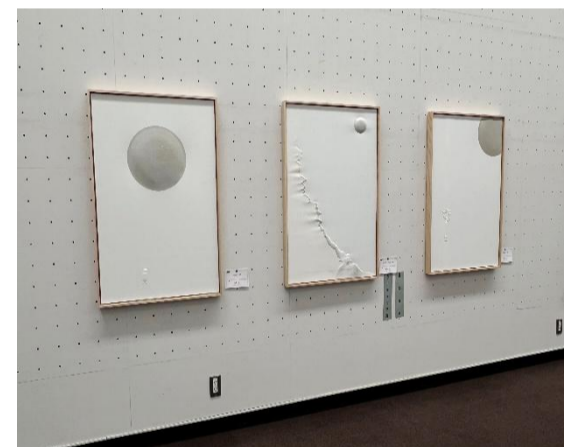


2.5次元作品 名号の書  
※白色再現

#### Q. 今後の展開について教えてください。

今後の展望は、この「2.5次元印刷」を単なる特殊印刷の一種ではなく、印刷業界における新しいカテゴリーとして確立させることです。国内外のトップクリエイターが「この表現を実現するならアド・シーズの2.5次元印刷だ」と指名されるような、唯一無二の技術ブランドへと高めていきたいと考えています。

そのためには、アナログな職人技術の深掘りと並行して、最新のデジタル技術やAI、SNSを活用した情報発信にも力を入れていく予定です。具体的には、これまで「触らないと伝わらない」と捉えていた質感の魅力を、動画やプラットフォームを通じて視覚的に伝える工夫を凝らし、より広い層への認知拡大を目指します。時代に合わせたデジタル化と、同社が長年培ってきた「こだわり」を絶妙なバランスでミックスさせ、社員一人ひとりがスペシャリストとして輝く組織を目指します。職人の「経験と勘」を尊重しながら、それを「データと戦略」で支えるハイブリッドな経営を推進し、次世代の印刷文化を切り拓いていく挑戦をこれからも続けてまいります。



2.5次元作品 第59回創展出品  
※作品中央、クリエイティブ賞受賞

#### アドバイザーからのコメント

アド・シーズ様は、次世代の経営者が中心となり、これまで明文化されていなかった事業計画を体系的に整理し、属人的な経営体制からの脱却を図る必要性を感じられ本事業に参加されました。

本事業では、顧客の可視化や中長期事業計画の策定を通じて、これまで個々の経験や感覚に依存していた経営を、組織として共有可能な戦略と言語へと転換することを重視しました。その結果、社内に共通認識が生まれ、組織的な知見の蓄積および継承を可能とする基盤が構築されました。

また、独自技術である「2.5次元印刷」を、いかに事業として再現性と持続性のある形に整理できるかも重要なテーマでした。現時点では確固たる方向性が定まっている段階には至っていないものの、第59回創展において、クリティック賞を受賞されるなど、アート作品としても高い評価を得ており、新たな展開への可能性を秘めています。今後は感性と理論を融合させた同社ならではの経営モデルが、印刷業界に新たな価値を示すものと期待されます。